

「北陸広域観光チャンネルネット構想」準備会議第1回会合を開催



第1回会合の様

北陸総合通信局では、石川県金沢市、同珠洲市、富山県南砺市及び株式会社ヨーズマーとともに、「北陸広域観光チャンネルネット構想」を推進するための準備会議を設置し、その第1回会合を平成24年2月6日に開催しました。

「北陸広域観光チャンネルネット構想」は、北陸観光の玄関口や域内の観光導線の結節点(HUB)となる場所(駅、空港等及びその周辺の観光案内施設、宿泊施設等)に、サイネージ(電子看板)、エリア放送、WiFi等多様な情報発信の拠点を整備し、相互にネットワーク化するとともに、相互の観光情報コンテンツの有機的な連動を促すことにより、広域観光連携による北陸域内での観光客の周遊性・回遊性の向上と北陸の広域観光ブランドの形成をめざす構想です。



田中 南砺市長



山野 金沢市長

会合では、準備会議のメンバーである北陸総合通信局長、金沢市長、南砺市長、珠洲市長のそれぞれから、ICTを活用した観光振興の取組や「北陸広域観光チャンネルネット構想」への期待などが述べられました。

引き続き、準備会議の事務局を務める(株)ヨーズマーの野口社長から、本構想の概要、今後の進め方について説明があり、準備会議の設置要綱が承認されました。



泉谷 珠洲市長



齊藤 北陸総合通信局長

準備会議では、今後、3月を目途に、金沢駅、南砺市内、珠洲市内、空港、温泉地等にプロトタイプ的な情報発信の仕組みを構築して、試験的なサービスの提供を開始し、広報・PRを進め、参加者、協力者の輪を広げ、4月を目途に、オール北陸の力を結集するための「北陸広域観光チャンネルネット構想推進協議会(仮称)」を立ち上げることが確認されました。



野口 (株)ヨーズマー代表取締役

問い合わせ先: 情報通信部放送課 076-233-4490

北陸広域観光チャンネルネット構想

構想の概要

「北陸広域観光チャンネルネット構想」は、2014年度開業予定の北陸新幹線の開通を見据え、北陸観光の玄関口（ポータル）や域内の観光導線の結節点（HUB）となる場所（例えば、駅や空港等及びその周辺の観光案内施設、宿泊施設等）に、エリア放送、サイネージ（電子看板）、WiFi等多様な情報発信の拠点を整備し、相互にネットワーク化するとともに、相互の観光情報コンテンツの有機的な連動を促すことにより、広域観光連携による北陸域内の観光客の周遊性・回遊性の向上と広域観光ブランドの形成をめざす構想です。

駅や空港等に設置されたエリア放送局から半径数百mの受信範囲内にある公共交通機関利用者、観光案内所等訪問者、周辺ホテルへの宿泊客に対して、サイネージ（電子看板）により「気づき」を与え、フルセグ放送（ホテルの部屋にある一般のテレビ）やワンセグ放送（携帯電話・スマホ等）により「視聴」を促します。さらに、インターネットでも視聴できるようにし、WiFi（携帯電話・スマホ等）による「検索」を促します。



本構想を実現するための「エリア放送チャンネルネット」の整備は、運営事業者が地元企業等の支援と協力を得て実施し、各地域の行政（県・市町村）、観光協会等は、この「エリア放送チャンネルネット」を利用して、北陸域内の各拠点で観光情報、行政情報等を広域的に発信（提供）し、利用した分だけ利用料金を支払います。

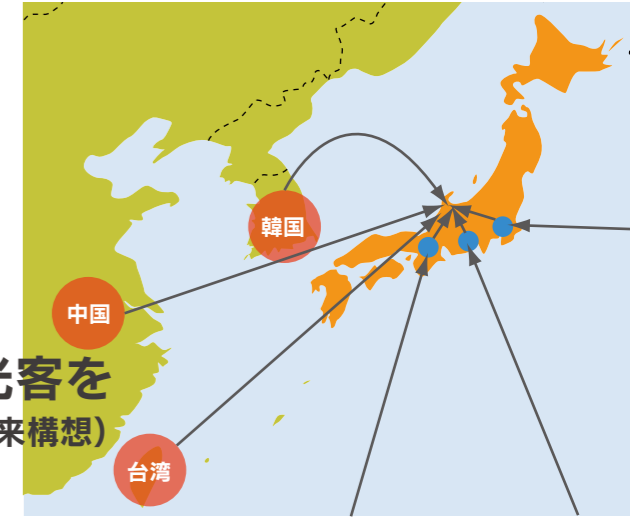
エリア放送画面イメージ例



北陸への観光導線の結節点（HUB）の全国への展開（※将来構想）

能登 能登空港 和倉温泉

世界中から観光客を誘導・誘致（※将来構想）



金沢

富山

首都圏

南砺

飛騨高山（白川郷）

中京圏

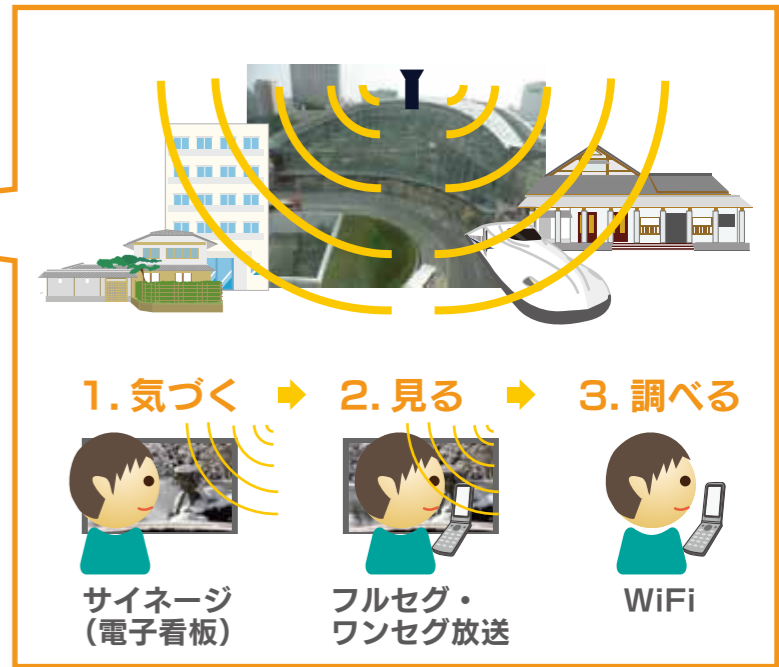
対象者

- 公共交通機関利用者
- 観光案内所等訪問者
- 周辺ホテルへの宿泊客

情報提供手段

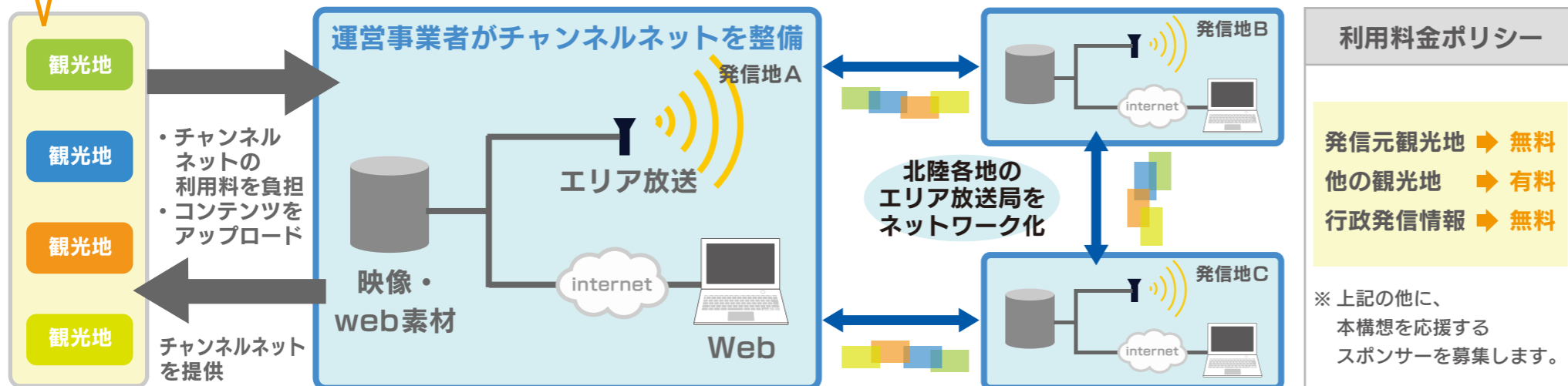
- サイネージ（電子看板）
- フルセグ・ワンセグ放送
- WiFi

※まず、金沢駅、南砺市内、珠洲市内、能登空港、和倉温泉、小松空港にエリア放送局を設置し、石川県内及び南砺市間の観光導線の形成をめざします。



北陸域内での周遊性・回遊性を向上させるコンテンツ作り

仕組みの全体イメージ



利用料金ポリシー

- 発信元観光地 → 無料
- 他の観光地 → 有料
- 行政発信情報 → 無料

※上記の他に、本構想を応援するスポンサーを募集します。

北陸広域観光チャンネルネット構想推進協議会（仮称）の設置（案）

オール北陸の力を結集して本構想を推進するために、以下のような協議会の設置をめざします。

構成メンバー



※当面、以下のような準備会議の設置を進めます。
金沢市、珠洲市（ICT奥能登「絆」づくり協議会）、南砺市、北陸総合通信局、㈱ヨースマー
※当初は、少数のコアメンバーによる準備会議を立ち上げ、プロトタイプを構築、試験的なサービス提供を開始し、本構想を広報・PRします。
※その後、徐々に同調者、参加者、協力者の輪を広げ、北陸広域観光チャンネルネットの範囲を北陸の域内外に広がっていきます。
※いずれ北陸域外の空港、駅等にエリア放送局のネットワークを広げ、北陸域外からの観光導線形成の結節点（HUB）を日本全国に展開していきます。